別紙様式1

令和8年度　学校評価表

（ 中間 ・ 最終 ）　　学校名　三原市立幸崎中学校　　校番（26）

a　学校教育目標	自ら学ぶ、心豊かな生徒の育成	b　経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命）　◎ 社会のために役立とうとする志を持つ生徒の育成 ◎ 地域・保護者の期待に応える学校 【ビジョン】（自校の将来像）　◎ 伝統や文化の継承を軸に成長する学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9月 h 達成値	月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力	幸崎思考力を育み、自律的に学ぶ生徒を育成する	基礎学力の定着	・生徒の個の課題を見取り、補充学習や家庭学習の習慣化に向けた手立てを行うことで、基礎学力の定着を図る。	・実力テストにおいて全国平均を超えた生徒の割合50%以上。 （R7：44.5%）	50%	30.0%		60.0%	C	・昨年度は50%以上の得点率としていたところを、今年度は全国平均を超えた率としたため、大幅に達成度が下がった。 ・実力テストにおいて、基礎的な項目の得点が低い。各授業でも、基礎・基本にあたる力がなかなかついていないと感じられる状況がある。 ・家庭学習の習慣が身についている生徒は少なく、多くの生徒がゲームやスマホを触っている現状がある。	・基礎学力の定着に向けて、2学期から全学年で、国語の漢字、英語の英単語の毎日学習ノートの宿題を実施する。また、定期的に小テストを行うことで定着度を見取っていく。	○			・学力の指標を定期テストから実力テストに変更し、昨年度より厳しい結果を受け止め、家庭学習習慣の再構築やR80・日記の質の向上を図っておられることがよくわかりました。12月の実力テストの結果では、50%に達しない生徒で5月の結果よりどう伸びたかも分析しておいてもらいたいです。 ・「基礎学力の定着」における達成値が目標値を大きく下回ることが、やはり気になります。 ・全教科でのR80の活用は良いと思う。 ・中期経営目標に向け、明確なデータ分析と具体的な改善策が示されている点を高く評価します。 ・学力向上への多角的なアプローチを期待し、少数精鋭の強みを活かした一人ひとりに寄り添う指導方法を応援しています。
			・心理的安全性を確保し、協働的に学ぶ集団づくりを行うことで、授業改善を図る。	・「学校の勉強には自分から進んで取り組んでいる」に対して、肯定的評価の割合85% （R7：80.5%）	85%	78.3%		92.1%	B	・おおむね達成している状況である。 ・学校の提出物については、一定数の生徒が、定着しない。しかし、どの学年も少しずつ意識は上がってきている。	・毎日提出する日記を充実（ただの報告文ではなく、自分の思いを入れたもの／漢字を使っているもの／お題に沿った自分の考えを書くもの等）させる。	○			
		幸崎思考力の向上	・ICTの効果的な活用と、R80を活用した振り返りで論理的思考力を高める。	・「授業の終わりに、振り返り（R80）を書くことで、論理的思考力が高まったと思う」に対して、肯定的評価の割合 （R7：82.6%）	85%	86.2%		101.0%	A	・全教科でのR80の取り組みを進めており、その結果が現れている。「書く」ことへの抵抗感も、下がりつつある。 ・毎回の研究授業等で、書かせたいR80を設定し、教員がゴールイメージを元に授業案を組み立てていくことが常態化してきている。	・各授業の中でペアワークを一層充実させる。そのために、個の見取りを充実させ、一人ひとりにあった声かけをしていく。 ・書く内容の質の向上を目指し、視点を与えるなど具体的な指示を工夫する。 ・書かせたいR80やキーワードなどを事前に準備をしていく。	○			
豊かな心・健やかな体	自他を大切にし、ともに成長しようとする生徒を育成する。	自己肯定感の向上	・自己の役割を認識し、繰り返し成功体験を積める授業や行事等を行う。	・i-checkの散布図Ⅰにおいて、AB領域に分布する生徒の割合80% （R7：77.8%）	80%	70.0%		87.5%	B	・1,2年生では、人間関係については肯定的な回答が多い一方、D評価の生徒に自己肯定感の低さが見られた。3年生では、自己肯定感や人間関係がともに良好なA評価が半数以上を占める一方、B・C・D評価の生徒も見られ、自己肯定感や学級適応感の低さ、人間関係への不安等、個々の生徒が抱える課題が多様化している。全体として、人間関係が良好な生徒が一定数いる一方、自己肯定感や学級適応感に課題を抱える生徒への支援が十分でなかったことが課題である。	・生徒一人一人の実態を踏まえ、授業や行事等で達成可能な目標を設定し、成功体験を積み重ねられる機会を意図的に設ける。個人面談を通じて生徒の取組や成長を教職員で共有し、肯定的な声かけや評価を通して、生徒が自己のよさや役割を実感できるよう組織的に取り組む。	○			・i-checkを活かして、生徒個々の内面の課題を把握され、個人面談などを通じて、課題解決に努めようとされているのがいいと思います。それが集団や個々の変化にどうつながったかを、次回に教えてください。 ・i-checkの設問を知りたいです。 ・少人数であることを強みに、生徒一人ひとり個別性を考えて、声かけや目標設定をしてくださっていると思います。 ・自治的態度の育成、ペアワークを取り入れた柔軟運動など、人間関係づくりと能力向上を両立させる取組に期待します。 ・上級生の姿を見習いたいと下級生の意見が出るところが、この目標の正解だと思います。 ・子どもの体力・持久力の低下は、これからも問題となりそうなので、今回の結果が持続・向上できるような取組が必要かと思います。 ・部活動の活動縮小が進む中で、生徒の体力向上を学校はどう図っていくかは大きな課題となると思います。体育科の役割も大切ですね。
		自治的な活動を通して、互いに成長しようとする集団の育成	・お互いを認め合い、高め合う集団づくりを行い、リーダーの育成と自治的集団の質の向上を目指す。	・運動会、文化祭などの各行事後のR80とアンケートの肯定的評価の割合100% （R7：98.5%）	100%	89.5%		89.5%	B	・運動会練習では、団長・副団長を中心に分かりやすい指示の出し方や上級生としてどのような姿を見せたいかを考え、行動させた。下級生も上級生からの言葉や指導を受け止め、改善しようとする姿が見られるなど、自治的集団としての質も向上していた。当日も天候が悪い中で、協力して行うことができた。しかし、集中力が途切れると、指導が必要な行動が見られることが課題である。	・R80への記述から、行事を成功させようと必死に取り組む上級生の姿を見習いたいという下級生の意見もあり、次年度以降のリーダー育成にもつながると感じた。 ・下級生は上級生の良い点、悪い点の両方を見て学んでいることを認識させ、最後まで全力で取り組むリーダーの姿について再度考えさせたい。	○			
		健康の増進と体力の向上	・サーキットトレーニングを授業開始等に行うなど、体力・運動能力の向上を図る。	・持久力、柔軟性について、前回の記録を上回る生徒の割合75% （R7：70.5%）	75%	60.9%		81.2%	B	・準備運動に加えて、柔軟運動と補強運動に取り組んだ。柔軟運動では、柔軟性を高めることの必要性を認識させ、ペアを組ませることで、1人で行うよりも丁寧かつ強度を高めて行えるよう指導した。その結果、67.4%の生徒が前回の記録を上回った。しかし、上体起こしの結果から見る筋持久力は、54.3%と目標値を大きく下回る結果となったことが課題である。	・柔軟運動は、今後も継続してペアで行っていく。筋持久力については、上体起こしを補強運動で取り入れるだけではなく、腹筋、背筋を強化するためのメニューを考え、定期的に記録をとる。そして、その推移から効果のある方法を見定め、実践させていく。	○			
信頼される学校	自校に誇りを持ち、地域に信頼される学校づくりの推進を図る。	郷土愛の醸成	・地域や社会と関わりを持ち、自治活動を推進する。	・「獅子太鼓の継承は、自分と地域の関わりを考える機会になっている」に対して、肯定的評価の割合100%　（R7：96.9%）	100%	95.8%		95.8%	B	・知己の協力を得ながら、練習を通じて、先輩から後輩へと技術的な継承は進んでいる。 ・一方、郷土愛につながる心を育む時間は、十分には取れていない。文化祭等行事での発表を経て、地域との関わりを感じられるよう仕組んでいく必要がある。	・練習の中で、自分と地域との関わりを意識できるような話し合いが生徒同士でできるような取組を行う。 ・行事等の後の感想も、生徒自身が自分と地域のつながりを意識させるような視点を提示し、郷土愛の醸成を図る。	○			・獅子太鼓の取組が、学年を越えた生徒のつながりや地域の方との架け橋になるようにCSとして後押しできればと思います。 ・郷土芸能班での練習はすばらしいです。卒業後の祭りへの参加人数が少ないので、何か改善策をとってほしいです。 ・郷土愛のある子が育っていると思います。 ・先生方が疲れをため過ぎないように身体管理に留意され、元気な姿で生徒に対応していただけることを望みます。
		充実感・達成感に満ちた 教育活動と 教職員の働き方改革の推進	・行事や活動を見直し、業務改善に取り組む。 ・定時退校日と月別時間外在校時間（30時間以内）を徹底する。	・月別時間外勤務30時間以内の職員の割合75% （R7：63.8%）	75%	69.2%		92.3%	B	・昨年度に比べ、退校時間が一律に早まっている。日々の業務を計画的に進め、時間を意識した働き方ができつつある。 ・時間外在校時間45時間以内は、毎月達成できるようにはなってきたが、30時間以内には達しない職員もいる。30時間以内が目標であることをあらためて意識させていく。	・定時退校日のみならず、毎日の業務を退校時間を意識して進めていく。 ・全職員が見通しを持ちながら業務を進められるよう、進捗状況の把握に努める。その中で、30時間以内を意識した働き方を進めていく。	○			

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。
ロ：自己評価は適正でない。　ハ：分からない。